

益城町派遣を経験して3

派遣先 益城町復旧事業課
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 吉谷 貴彦
活動期間 平成28年12月1日～平成31年4月24日

○ はじめに

平成30年3月で派遣も1年4ヶ月が経つのですが、平成30年度で災害復旧終了年の3年目を迎えるため派遣継続を希望して益城町の公園災害復旧を完了することにしました。

今年度も北九州市からの派遣の西山さん、小田さん、佐藤さん4名とも同じ復旧事業課で引き続き復旧業務を担当しました。

復旧事業課は、工務係、農林整備係、建築係、宅地復旧係の4係で総勢約70名（派遣、任期付、コンサルを含む）と大所帯なのですが、係によっては人手が足りない状況でした。

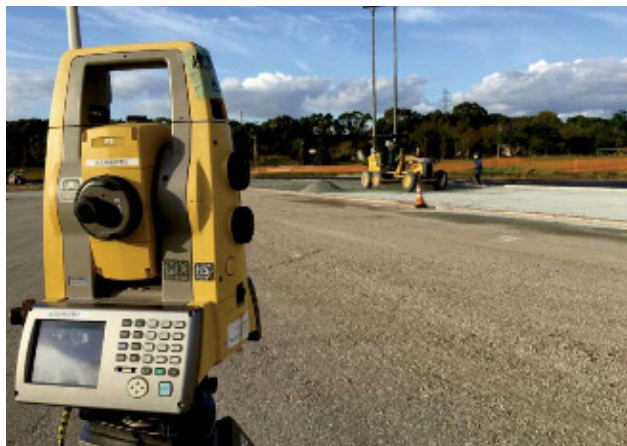
役場全体の派遣職員は、前年度からの継続が23名で、38区市町村区52名です。前年と比べると減っていますので、どこの自治体も厳しい状況なのかと思いました。益城町職員約290名に対して一割を超える人員でのスタートでした。

○ 現地での活動経過

工事発注が昨年度に終わり、今年度は工事監督が主な業務でした。

その中でもメインとなる工事が益城町総合運動公園の復旧工事で陸上競技場、サッカーグラウンド、テニスコート、駐車場、ナイター照明と工種も多岐にわたる内容で査定金額も約7億7千万と高額でした。

総合運動公園はスポーツ・レクリエーションの場として多くの町民が利用されており、震災時には約1500人の方々が避難され、早期完成を待ち望まれている公園であるので、工程管理には特に注意を払い監督業務を行いました。



情報化施工システム



益城町総合運動公園陸上競技場（復旧前）

大きな施工面積で数mm単位の精度管理が必要となるため、施工業者からの技術提案により情報化施工システム（自動追尾光波測定器マシンコントロール）を採用することにしました。これにより操作員の技量に左右されることなく高い施工品質と生産性を安定的に確保できました。無事工期内に完成できたのも、施工実績、高度な施工技術がある運動施設専門の施工業者のおかげだと感謝しています。

○ 活動を通して印象に残ったこと

地震発生後3年目となると復旧工事も最盛期を迎え職員も忙しい状況でした。

工務係で災害復旧の補助工事に携わっている技術職員は10人（町職員3人、任期付職員1人、派遣職員6人）で、内訳でもわかるように派遣職員の力が必要な状況でした。北九州市以外からは久留米市、都城市、串間市から派遣職員が来られていましたが、みんな現場の経験豊富で淡々と仕事を捌く方々でした。町の職員が少ないため派遣職員各自で業務を進めていく技量が必要で、派遣を通じて若手職員が災害復旧の勉強をするのも大事だと思いますが、現場経験が豊富で即戦力の職員が求められるとつくづく思いました。

また、復旧工事を実施するにあたりいろいろな問題も発生し対応に追われることもありました。

災害復旧は限られた人員で短期間に数多くの査定を受けないといけないため、現地での細かい確認や設計書の精査等が見落としやすくなります。実際に現地施工に入ると被災箇所の拾い漏れや数値の違い等変更箇所もあり、軽微な変更であれば対応も難しくないので、重要変更（3割増減及び1000万円増減、工種の増減等）の対象となると国土交通大臣の同意が必要となるため熊本県や国土交通省との協議が必要

北九州市では公園事業の職場に所属していたこともありましたが、陸上競技場の整備経験は無く、私もサッカーをしていることからサッカーグラウンドの整備を一度経験したかったので、良い経験をすることができました。

陸上競技場（サッカーグラウンド）及びテニスコートにおける路盤工、アスファルト舗装工の施工については、広



益城町総合運動公園陸上競技場（復旧後）

になり、かなりの時間や労力を費やします。災害査定は如何に正確で、尚且つスピーディーに設計するかが重要になると思いました。やはり今回の熊本地震のような査定時には、ひとりひとりの負担を軽減できるよう、多くの職員で挑まないといけないと感じました。もし北九州市でこのような災害が起きた場合に、どれだけの人数（職員配置、応援等）を確保できるかが早期復旧のポイントではないかと思えます。

今までの派遣では気が付かなかったこともありました。

派遣職員の人数も多く、また派遣の長期化が進むと派遣職員の中でも業務量の差が明確に表れています。派遣に来ているからには町職員の負担を軽減できるよう積極的に業務に取り組む職員もいれば、そうでない職員も見受けられ、同じ派遣職員として少し残念に思うこともありました。

派遣を受け入れる側として派遣職員の業務量の把握、配置転換など派遣職員をどう活かすかが、限られた人員で業務を進めることができるかどうかではないかと思いました。

○ 派遣での生活

派遣中は町の職員や派遣職員とサッカー、登山、ツーリング、マラソン…などいろいろな催し事で交流を深めることができました。

その中でも、今年度最大のサッカーイベントのワールドカップは、かなり盛り上がりました。職場の同僚がたまたまサッカー好きということもあって派遣職員の宿舎で、日本が勝利するように対戦相手国の料理を手作りして、食べながら観戦するという集まりを行いました。今後、ワールドカップが開催される度に、この楽しかった経験を思い出すのではないかと思いました。

派遣期間中益城町で何不自由なく居心地よく生活することができたのも、町の職員や派遣職員のおかげだと感謝しています。

○ 最後に

今回の熊本派遣を通じていろんな事を経験し勉強になりました。また全国の自治体の職員と出会えて繋がりができたことは大きな財産となり、今後の業務や私生活でも役に立つと思いました。

北九州に戻り職員の方々と話すと「派遣大変でしょう？」とよく言われることがありますが、私自身派遣期間中に大変と思ったことは一度もなかったです。業務が忙しいとか家事などの身の回りのことが面倒などいろいろ思うことはあるのですが、それ以上に町職員や派遣のみんなと過ごした日々が楽しく有意義だったので、大変と思うことはなかったです。

北九州市から外に出ないと経験できないことが沢山あるので、北九州市の職員で派遣に興味がある方はぜひ希望されることを薦めます。

2年4ヶ月と長期の派遣が無事に終わることができたのも、益城町役場の職員、各自治体からの派遣職員、北九州市役所及び家族のサポートのおかげだと思っています。

まだまだ復旧復興には時間が掛かり、多くの人の協力が必要です。派遣は終了しますが、益城町の復旧・復興に役に立つことがあればこれからも協力したいと思います。